社会科学習指導案

１　日時・場所　令和３年１１月４日（木）４校時　図書室

２　学年・組　１年２組（３０名）

３　単元名　社会科（歴史）　第３章　中世の日本
　　２節　ユーラシアの動きと武士の政治の展開

４　単元について

本単元は「思考・判断・表現」の観点において，ユーラシアの交流，武家政治の展開と東アジアの動き，民衆の成長と新たな文化の形成について，中世社会の様子を多面的・多角的に表現しているかどうかを評価の規準としている。この規準を達成する際には，事象を相互に関連付けたり，他の時代との比較を用いたりすることが有効であると考えられる。その点については，学習指導要領においても「歴史に関わる事象の意味や意義，伝統と文化の特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う」（〔歴史的分野〕目標（2））と記載されている。これを受け，本単元では中世日本における東アジア世界との密接な関わりや，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて学んだ後，中世社会の様子について現代との比較を用いて表現させることで，表現力等の育成を図りたいと考える。また，本単元では単元の冒頭で中世社会の様子において，興味関心のある課題を，四つの視点（「政治の動き」「東アジアにおける交流」「農業・商工業の発達」「文化の特色」）に関連付けて設定し，単元の学習を通して情報の収集，整理・分析，まとめ・表現を行う「探究的な学習」の視点を取り入れて授業を構成していきたい。

５　学校図書館の活用について

社会科という教科において，学校図書館は有効に活用できる場所であると考えられる。しかし，学習内容そのものの資料を活用しようとすると，生徒一人ひとりが手にできる資料が少なかったり，雑学的な知識の習得に陥ってしまったりしがちである。そのため，今回は現代の政治の動きや東アジアとの関係性，現代の文化等について調べる際に図書資料を活用し，本単元の学習内容である中世日本の政治や東アジアとの関わり，文化の形成について現代との比較を用いて表現させるという方法を用いることとした。また，本時の授業に向けて，生徒が課題をある程度設定できた段階で，中世社会の様子をまとめるためには，どのような情報が必要なのか，どのような資料からそれが入手できるのかという部分について考えさせる活動を取り入れることで，学校図書館がより効果的に活用できる状況を整えたい。

６　単元目標

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ○農業など諸産業の発達などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	○武士の政治への進出と展開などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，ユーラシアの交流などについて，中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。	○ユーラシアの交流などについて，そこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとしている。

7　単元の指導計画

時間	学習目標	評価規準		
		知・技	思・判・表	態度
1	・モンゴル帝国がユーラシア世界に及ぼした影響を，大陸内の結び付きに着目して考察し，表現する。		○	○
2	・モンゴルの襲来と日本への影響について，主従関係に着目して考察し，表現する。		○	
3	・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過を理解する。	○		
4	・東アジアの人々の交流や結び付きを理解する。	○		
5	・畿内を中心に自治的な組織が生まれたことについて，農業や産業の発達に着目して考察し，表現する。		○	
6	・応仁の乱による社会の変化について，戦国大名の支配に着目して考察し，表現する。		○	
7	・この時代に生まれた文化で，現代に受け継がれているものに関心を持つ。			○
8 本時	・現代との比較を通して中世の日本を大観し，時代の特色を捉える。		○	○
9	・中世の日本を現代との比較を通して考察し，表現する。		○	

8　本時の内容

(1) 本時の学習内容　中世の特色を探ろう（教科書９６，９７ページ）

(2) 本時の流れ

	学習内容と学習活動	指導上の留意点　○評価
導入	1　本時の流れ等を確認する。	・事前に班の中で「政治の動き」「東アジアにおける交流」「農業・商工業の発達」「文化の特色」の四つの視点のうち，誰がどれを担当するかを決めておく。
展開	**中世日本の特色を，現代と比較して表現してみよう**	
	2　資料を探し，中世日本の特色についてレポートにまとめる。	・「政治の動き」などの大きな枠組みではまとめづらいので，「政治におけるリーダー」や「地方の政治」など，小さな枠でまとめるように事前に伝えておく。 ・別の班であっても，同じ視点の人とは交流してもよく，その中でよりよい表現ができるようにさせたい。 ・グラフや表を用いたり，色を使用したりするなど，伝わりやすいレポートを作成するように促す。 ・あくまで中世の日本のことがメインであり，現代のことがメインにならないようにする。
	3　作成したレポートを持ち寄り，次回の発表に向けて，班で発表内容等を確認する。	・発表の形式等についてはプリントで伝える。 ○中世日本の特色を現代との比較を通して考察し，レポートで表現することができている。　（思判表：レポート）
終末	4　次回の連絡，振り返りを行う。	○本時で学んだ内容について，具体的に振り返ることができている。（態度：振り返りシート）

数学科学習指導案

１　日時・場所　　令和３年１１月４日（木）４校時　１年１組

２　学年　・　組　　１年４組（３１名）

３　単元名　　４章　比例・反比例

４　単元について

『中学校学習指導要領解説数学編（平成 29 年）』 には関数指導の意義として，「自然現象や社会現象などの考察においては，考察の対象とする事象の中にある対応関係や依存，因果などの関係に着目して，それらの諸関係を的確で簡潔な形で把握し表現することが有効である。（中略）中学校数学科では，具体的な事象の中から二つの数量を取り出し，それらの変化や対応を調べることを通して，関数関係を見いだし考察し表現する力を３年間にわたって徐々に高めていくことが大切である。」（P.50）と書かれている。

今回の指導では事象の中からともなって変わる２つの数量に着目し，関数関係を見いだすことを行う。従来の指導では，「事象の中から関数関係を見いだす」場合の「事象」が与えられた状況であったり，自身の経験であったりすることが多かったが，今回は学校図書館にある書籍の内容を広く「事象」として活用し，その中から「関数関係を見いだす」という取り組みをさせる。書籍の中から関数関係を見いだす，あるいは考えるきっかけとすることによって，関数関係は様々な場面の中にあるということを体感させ，生徒の関数についての理解を深めたいと考えている。

５．学校図書館の活用について

『中学校学習指導要領解説総則編（平成 29 年）』では「学校図書館を計画的に利用し，その機能の活用を図り，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに，生徒の自主的，自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」（P.90）とされ，「②生徒の自主的・自発的かつ協働的な学習活動を支援したり，授業の内容を豊かにして，その理解を深めたりする『学習センター』としての機能」も期待されている。今回の活用方法は，これらの趣旨に合致しない部分もあるが学習指導の手段の一つとして，学校図書館の活用を広くとらえることにする。その際，司書教諭，学校図書館司書には指導の効果が上がるように，事前に参考となる書籍を選定いただくなどの支援をお願いする。

６．単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
関数関係の意味を理解している。 変数変域の意味を理解している。 比例，反比例について理解している。 座標の意味を理解している。 比例，反比例を表・式・グラフなどに表すことができる。	比例,反比例として捉えられる２つの数量について，表・式・グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだすことができる。 比例，反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	比例，反比例について考えようとしている。 比例，反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 比例，反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

７.単元の指導と評価の計画

次	時	主な学習活動	知・技	思・判・表	態度
１	１	具体的な事象の中から，ともなって変わる２つの数量を見いだし，これらの変化や対応の仕方が多様にあることについて気付く。			○
	２	変数，変域の意味を理解する。関数の意味を理解する。	○		

2	1	変域を負の数の範囲まで拡張し，比例の意味を理解する。	○		
	2	比例の特徴を表，式から見いだすとともに，比例定数が負の数の場合もあることを理解する。	○		
	3	対応する1組の x，y の値から，比例の式を求める。		○	
	4	座標の意味を理解する。	○		
	5	座標の考え方を基に比例のグラフをかく。		○	
	6	比例の特徴を，表，式，グラフから見いだし表現する。		○	
3	1	変域を負の数の範囲まで拡張し，反比例の意味を理解する。	○		
	2	反比例の特徴を表，式から見いだすとともに，比例定数が負の数の場合もあることを理解する。	○	○	
	3	対応する1組の x，y の値から反比例の式を求める。		○	
	4	座標の考え方を使って反比例のグラフをかく。		○	
	5	反比例の特徴を，表，式，グラフから見いだし表現する。		○	
4	1	具体的な問題を解決するために，比例や反比例のグラフを活用する。		○	
	2 3	具体的な問題を解決するために，事象における2つの数量関係を比例や反比例とみなし，未知の値を予測する。		○	○
	4 5 6	関数の意味について理解を深める。（本時 第5次）			○

8．本時の活動

①本時の目標：社会の事象の中から，ともなって変わる2つの数量や関数関係を見いだし，数学的に捉えることができる。

②本時の学習過程

	学習内容と学習活動	指導上の留意点・評価☆
導入	1．関数の定義を復習する 「○を決めるとそれに対応して□がただ1つに決まる。」「□は○の関数である。」	・ともなって変わる2つの数量の関係を復習する。
展開	2．書籍をもとに関数関係をまとめる ・「○を決めるとそれに対応する□がただ1つに決まる。」,「□は○の関数である。」の形にかく。 ・式に表す ・対応表をつくる ・グラフをかく ・どの本の何ページをもとにしてまとめたのかをかく。 3．発表準備をする ・ワークシートの完成	・教科書や学校図書館で借りた書籍をもとに，まとめを行う。 ・ICT を活用し，書籍から感じた疑問や新しいデータを検索しても良いことを示す。 ・「○を決めるとそれに対応して□がただ1つに決まる。」を見つけることが難しい生徒には，「○が変わるとそれに対して□も変わる」を見つけ，2つの数量関係を考えさせる。 ・ワークシートに書いた文章が，関数の定義にあてはまっているかどうかを検討する。 ・必要に応じて協働学習を取り入れる。 ☆主体的に取り組む態度 具体的な事象の中から関数関係を見いだすことに関心を持ち，式・表・グラフを用いて，学んだことを生かそうとしている。
終末	4．まとめ・次回の流れを告知 ・次回の授業で，まとめた内容を発表することを告知する。	・人が見つけた関係を知ることによって，関数が日常的にあることを次回の授業で学習する。

国語科学習指導案

１　日時・場所　令和３年１１月４日(木)　４校時　２年２組

２　学年・組　　２年２組　（３９名）

３　単元名　「平家物語　―扇の的―」

４　単元について

（１）教材観：　「平家物語」は，我が国の代表的な軍記物語である。「扇の的」は，那須与一が扇を見事に射落としどよめきたつ平家・源氏両軍の人間模様を描いている。一見すると華やかな場面に見えるが，与一の腕に感動して舞を舞った老武者までもが続いて射倒され，場面は一転して非情な戦場へと引き戻される。「御定」とあれば罪なき人でも無情に射ぬかなければならない与一の悲しさ，戦の厳しい現実と向かい合う人々の切実な姿を読むことで自分自身を含めた人間の生き方を追求できるのではないかと思われる。また，作品に表れたものの見方や考え方は，現代の人々が共感できるものがあり，より古典を親しみあるものとしてとらえさせている。これらのことから，本教材は，古典の楽しさを味わえるとともに他の古典作品への興味・関心を高めるのに適した教材であると考えられる。

（２）生徒観：　生徒は，小学校においては音読を中心に様々な古典作品に触れており，中学校でも『竹取物語』『矛盾（故事成語）』『枕草子』の三作品を学習している中で，古典作品に対する抵抗感はないように感じられる。また，文章中の描写を根拠として登場人物の心情をとらえることも概ねできているように見受けられる。一方で，作品の背景を理解したり，登場人物の置かれている立場などを踏まえた心情を読み取ったりする力は十分についてない。また，自ら文学作品や古典作品について積極的に図書室を利用して読んでいる生徒は少ない。

（３）指導観：　指導においては，擬音語や擬態語，登場人物同士のやり取りや心情描写など細かな表現に着目させるとともに，時代背景を理解させることを通して，那須与一の心情を自ら表現させたい。また，学校図書館を活用して，本教材につながる『平家物語』の全体像や登場する人物像などを調べることを通して古典作品に興味・関心をもち自ら本作品のみならず他の古典や文学作品を読もうとする態度を育てたい。

５　学校図書館の活用について

　これまでも，国語に限らず全ての教育活動における調べ学習や放課後学習会で，学習センター，情報センターとして図書室やコンピュータ室を活用してきた。一方で，読書センターとして図書室を活用する機会は少ない現状がある。そこで今回は，調べる対象を図書に限定し，図書に興味をもたせ以後読書センターとして図書室を利用する生徒を増やしたいと考えた。

６　単元（題材）の目標

（１）物語の背景や描写から，主人公那須与一の言動の意味について考え，内容を解釈する。

（２）平家物語の背景や全体像を知ることを通して読書への関心を高める。

7　単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・物語の背景や主人公の置かれた状況を理解し，言動の描写（表現）に着目して内容を解釈している。	・情景や言動の表現に注意しながら，与一の心情ついて説明できている。 ・平家物語の背景について調べ，興味関心が湧くように説明できている。	・与一の置かれた状況を理解した上で，与一の心情を読み取ろうとしている。 ・平家物語の背景を調べることを通して，古典作品に関心をもち自ら読もうとしている。

8　指導と評価の計画

次	時	主な学習活動	知・技	思･判･表	態度
一	1	「平家物語」について，その特徴や文学的価値などについて理解するとともに，冒頭文を読み，根底に流れるものの見方・考え方を読み味わう。	○		
	2	「扇の的」を通読し，あらましをとらえる。		○	
	3	那須与一の心情をとらえる。	○	○	○
	4	「御定」の重さと非情な戦場について考える。	○	○	
二	5 6	作品の背景や作品に関連した事項を調べまとめる。		○	○
	7	調べた内容を作品の魅力につながるように伝える。**(本時)**		○	○

9　本時案

（1）本時の目標：『平家物語』の魅力が伝わるような作品の背景を伝えることができる。

（2）本時の展開

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	○　自分たちが調べた「作品の背景」について魅力的に伝えるよう，ポイントを最終確認する。	・限られた時間の中で端的に伝えられるよう指示する。	
展開	「平家物語」の魅力が伝わるよう作品の背景をプレゼンしよう。 ○　グループごとにプレゼンをする。 （電子黒板を使用して発表する） ※聞き手側は，評価用紙にメモをする。	・聞き手側に評価用紙を配布し，態度，内容等についてメモを取りながら聞かせる。	・「魅力」を伝えるためにポイントを絞って発表している。 ・「魅力」を発見し，メモしている。
まとめ	○　プレゼン後に評価用紙に感想（振り返り）を書く。	・発見した「魅力」について書くよう指示する。	